



令和8年度
学校だより

Attractive Azuma つなぐ

吾妻学園
つくば市立吾妻中学校
第7号
発行日 R8. 5. 15

子供たちの幸せのために ～「一人残らず幸せになれる学校」の実現～

4月25日(土)の学校懇談会の際、校長の挨拶の中で、本校が目指す教育(教育目標)について説明がありました。その教育目標は「『一人残らず幸せになれる学校』の実現」です。4月に吾妻小学校長と協議し、小中共通の「吾妻学園」の教育目標として策定いたしました。

これは、本学園の最上位目標として、教職員だけでなく、児童生徒はもちろんのこと、保護者、地域の皆様にもご理解いただき、本校の教育を考えるための拠り所、指針となってほしいと考えたものです。平易な言葉で、本学園関係者であれば、誰でも覚えてもらえることも意識しています。また、つくば市の目指す教育の最上位目標「一人ひとりが幸せを実感できる」を念頭に置き、本学園の目標を達成するためのアクションが、つくば市が目指す教育の実現に直結するようにしました。

教育目標を目指していく上で大切なことは、まず「一人残らず」にあると思います。本学園の児童生徒一人一人が大切な存在です。あらゆる教育活動の中で、児童生徒一人一人がお互いの個性を尊重しながら、理解し合い、支え合っていく学校をつくることが重要だと考えます。

また、「幸せになれる」については、幸せに関する様々な研究等から、学校における児童生徒の幸せな姿として以下の5点をイメージしました。学校生活の中で、児童生徒にこのような姿があるならば「幸せな状態」であると考えます。

- 居場所があり、安心できる(自分らしくいられる)
- 分かった・できた・もっとやってみたいがある
- やりたいことに夢中で取り組む(学び続ける・楽しさ)
- 他者の違いを尊重し、つながり、支え合える
- 他者のためになることを考え、実行できる(貢献)

私たち教職員は、PTA やコミュニティ・スクール等の組織を活かしながら、保護者の皆様や地域の皆様とともに、この目標の達成を目指し、教育活動を進めてまいります。

どうぞご理解ご協力の程、よろしくお願いいたします。



学びの風景

日々の授業ではさまざまな学びが生まれています。その様子をご紹介します。

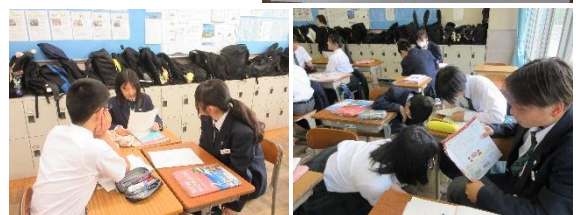
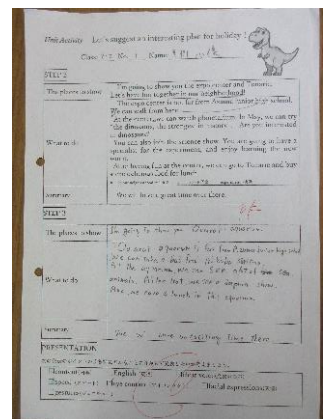
【8年「外国語(英語)」 アウトプットを重視した学び】

5月12日(火)3校時、8年2組、横山 英子 先生の英語の授業は、「Let's suggest an interesting plan for holiday!」という活動。架空の交換留学生に休日のお出かけのおすすめスポットを紹介する設定で、予め考えてきた紹介文をもとに、グループのメンバーに英語で伝えました。

その後は、「～の時やもし～は英語でどう表現する?」の課題の学習で、先生の読みに続いて個人で音読。そして隣の子とペアで音読。音読は、シャドーイングの手法で(シャドーイングとは、英語の音声の影のように少し遅れて真似して発音するトレーニング法)でアウトプットしていました。

過去の全国学力テストの結果では、日本の中学生は、英語を「話すこと」

「書くこと」を苦手としています。高校生であっても、幼児レベルのアウトプットができない状況もあります。実際、日本語でどう訳すかは分かって、その単語を適切に使って話したり、英作文をしたりすることは苦手です。AI が身近ですが、それに頼り過ぎず、アウトプットしていく学びが重要です。横山先生は、覚えた単語が「使える知識」になるよう授業を進めています。



グループで友達にスピーチ 下を向いて、ペアの読みに集中